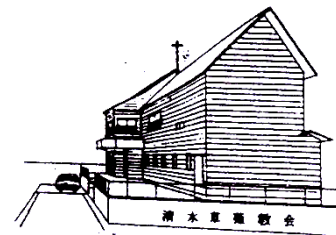


《今朝の聖書から》「さあ、朝の食事をしなさい」とイエス様は、復活の後、三度目に弟子たちに現れた時に、語られます。聖書を読む者の心をこの何気ない言葉が、実にやさしく包み込みます。十字架と葬りという、劇的な出来事の後、何事もなかったかのように語りかけてくださるのです。主にとっては計画通りのことだったのかもしれませんが。問題は全て、聖書が与えられた私たちにあるようです。「このあたりの記録は全部作り話だ」と言って、“信じないこと”はできます。あるいは、教会がそのように告白するように“信じること”はできます。けれども、このことについて、バルトという神学者は次のように書いています。“そして新約聖書は、私たちがキリストの肉体的復活を信じるなら、それ（生けるキリスト）を信じることができる、と言っているのです。なぜなら肉体のない生は、人間の生ではないからです。これが新約聖書の内容です。それを拒否することは何時でも自由です。だがそれを変更したり、新約聖書はそれと別のことを言っているのだ、と主張することは自由ではありません。誰も使徒を受け入れるか、拒否するかはできますが、それを変更することはできません。”と『教会の信仰告白』、「よみがえり」、新教出版、p.81)。今の私たちにとって、出来事は 2000 年前です。“そんな昔の話は私には関係ない”と思える時もあります。けれども、聖書は数十年前の歴史的出来事について記されたものです。また経験者たちによるものです。私たちも経験の世界にある事柄については、無視しません。それは今も続いているのです。もう一つのことをこれらの復活の出来事の記録から読み取りましょう。イエス様は公生涯において、人となんら変わらず生活され、歩まれました。ところが復活の後のイエス様の足取りは、地図上に印をつけることができなくなってきました。試みるのは楽しいことですが、私たちの感覚を超えるときがあるのです。著者たちは、出来事の一貫性と、矛盾のなさを考えて書こうとはしていません。伴われるイエス様の体験を、必要に応じて書きとめていることが分かります。初代の教会から“復活顕現”の物語に首尾一貫性は求めませんでした。聖書が随所で示すように主に出会った人々はすべて地震のような衝撃を経験しています。このことこそ、連続した時間の中における、人々の神様の出来事の経験を示しています。私たちの価値観も実にこの神様の出来事に支えられているのではないのでしょうか。信じない者ではなく、信じるものになりましょう。

週報

2008年 4月 6日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸